



＜ひとこと＞ ダイエットのために夜ジョギングを始めたら、晩御飯がおいしくなりました。

## 第4次千葉県障害者計画を進める東葛市民の会シンポジウム 9月6日開催



9月6日沼南公民館で、東葛市民の会主催の第2回目のシンポジウムが開催されました。

\*\*\*

今回は、広域で解決が必要な問題として、3つにテーマを絞り、それぞれがセッションという形でパネラーが並び、テーマごとに交代して進行し、最後に全体をまとめるというやり方です。

また、県との共催で、県対県(市)民ではなく、県(市)民同士が話し合うことに県も意見を言うというものです。東葛各市との共催という話もありましたが、市は足並みが揃わないと難しいよう実現しなかったことは残念です。それぞれのテーマごとに簡単に記します。

### ①重心施設

重度心身障害者施設はどんな障害・病気でも医療ニーズが必要な場合や強度行動障害などにも対応している施設である。東葛地域に無いから必要というだけでなく、どの地域でも地域の拠点となる施設として、その専門性を地域医療や福祉へのバックアップや、施設か在宅かとどちらか一方ではない生活の実現なども期待できる。すでに早期ではないが、実現を切に望んでいる。

### ②精神障害

家族の立場からは、心の病と広く捉えれば誰でも無縁ではないことであり、社会全体の問題として考えて行きたい。支援者からは、理解や偏見を持たないためには子どもの頃からの教育が必要、会場からは教育の場での実践の報告もありました。当事者からは、当事者の声を聴くことが大事にされているかという問いかけ、引きこもりもその人に必要な時間であり、見守ってもらえれば、集まる場があつてそこで思い思いにやりたいことからはじめればよいなどの意見。

### ③高次脳機能障害

まだまだ認知されていない障害であること。福祉の対象として他の障害と同じテーブルにはついていない状況。市は県の事業であるという認識であり、だからといって市をつなぐ広域での支援体制は至難である。医療リハビリは必要であっても期限で切られてしまうため、その先が見つかからない。高次脳機能障害を理解してくれる場所、居場所が必要。認知障害があつても単純な仕事であればやれる能力はあるが、配慮をしてまで雇用は進まないのが普通、だからこそ法や制度の支援が企業と当事者に必要である。



以上、各障がい固有の問題が浮かび上がったというよりも、今回のテーマで取り上げた障がいだけではなく、医療、福祉、社会、教育など一人の人を取り巻く環境の整備の問題、常に障がいを持つ本人の声、意見を中心にすすめることが当たり前の社会を実現するための、具体的な方策を今後検討していく必要があることを示したシンポジウムでした。



## あいネット 第2回運営委員会開催

### 「多重債務について」

今回はテーマに沿ってゲストスピーカーをお呼びし、初めての開催となりました。ゲストスピーカー：司法書士 石川亮様、特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所生活再生相談センター 西村貞男様、それぞれの現状、活動内容等のお話と質疑応答が行われました。

#### ＜石川司法書士から＞

○最近の傾向として、借金の額は少ないが返せない人が増加している。数年前までは消費者金融の金利と法定金利との差で、過払い金が発生する事があったが、最近は債務整理をしても借金が残ってしまうこともある。

○来年の6月ごろ、貸金業法の改正により、金利は法定金利の18%までとなり、借金の上限額も年収の3分の1までとなる予定。

#### ＜西村貞男さんから＞

○平成20年に県の委託を受け、24時間365日体制で相談を受けている。現在、相談員は十四名。専用ダイヤル043-247-0441

○多重債務について相談がくると、共に考え、債務整理については法律専門家(弁護士、司法書士)へ同行し、方針等を相談する。その後、関係団体、公的機関などと連携をして生活再生を目指している。

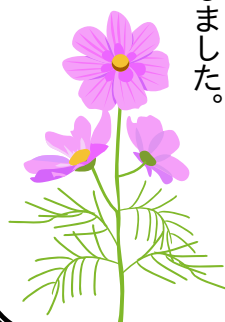
質疑応答では、専門家に支払う報酬のこと、ヤミ金で借りた相談者への対応、ブラックリストについてなど活発に行われました。

第二回運営委員会の記事でもご紹介しました「特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所」主催で、生活再生支援フォーラムが九月二日(水)県労働者福祉センターにて行われました。生活再生相談センターの実績・事例報告：「夜間や早朝の電話は、緊急ということではなく、その時間帯にしか電話ができない人や、夜間にインターネットでいろいろ調べた上で電話をかけてくる人がほとんど」「これまでの(相談者)年齢は18歳～最高90歳」「債務のきっかけは収入の減少や低収入が目立ち、特に収入が減少したことで、住宅ローン返済を優先し生活費が足りなくなり借入れするケースが多い」「債務額は200～300万円が多く、1社あたり50～60万円、4～5社から(借入れている)相談者が多い」

### 地域社会の未来のために ～多重債務の相談現場から見えてくること～

また、夫には内緒でカードにて借入をしてしまったが、自分のパート収入だけでは払えなくなつてしまった。夫に内緒でなんとかならないか。などの相談もあり、話をゆつくりと伺っていくと「家庭の破綻と家計の破綻は連動している場合が多い」というお話しもありました。

日々、多重債務、債務整理後の生活支援の必要性が言われておりますが、債務整理そのものは「(相談者の)生活再生をしていく中のプロセスの一つ」という生活再生相談員さんの発言に力強さを感じました。





# 地域活動支援センター being room



8月から、活動場所が変わりました！！

being roomは発達障害を持つメンバーを中心に活動しているセンターです。  
現在は10代後半～30歳前後の方が、1日5.6人ほど通っています。

今回は『being room』を取材しました。  
取材にご協力いただいた、being roomの皆様、ありがとうございました！！



## メンバーの『居場所』づくり

コミュニケーション能力の向上に力を入れた活動は、being room 独自のもの。  
今回の取材で見学させて頂いた SST「コミュニケーション能力養成プログラム」では、【人と安心して向き合える距離感】【相手の気持ちを察する】など、発達障害の方が苦手とすることへの対処方法を、言葉を使わない方法でメンバーに知ってもらう、というものでした。そこから、メンバーそれぞれのスタイルを意識できるようになるのが目標です。  
また being room で大切にしているのは『メンバーが安心できる居場所』であること。仲間との対等な関係やメンバーが自然でいられる場所であるよう、工夫がされています。

## being room とは？～名前の由来～

be(動詞)には「～いる、ある。」という意味があり、それは being room の目的である「居場所」というのに適しています。

また、ゆくゆくは社会に羽ばたいて欲しいという意で未来を示す「will be」ということから、付けられました。



being room での活動のひとつです。



※being room のご利用に関するお問合せは、発達障害者支援室「シャル」までお願いします。

(電話予約の上、お越し下さい)

電話/FAX：04-7169-2793

(相談予約受付時間

月～金の10時～15時)

住所：柏市花野井720-124

自閉症サポートセンター内



## おしらせ

◇◇◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(04-7165-8707)までご連絡ください◇◇◇

| 講演名   | 日時                          | 場所   | 費用             | 申込み       | 問合せ先他   |
|---|-----------------------------|--|----------------|-----------|---|
| 第2回 読み聞かせ指導者養成講座<br>「読み聞かせ、初めの一歩」<br>～気軽にやろう、読み聞かせ！～<br><br>講師：伊原 修一先生<br>(我孫子市立布佐小学校校長)  | 9/18(木)<br>10:00～<br>12:00  | 教育支援三アイの会<br>会議室<br>(柏駅東口柏神社先)                         | 500円<br>(資料代)  | 不要        | NPO法人教育支援三アイの会<br>住所：柏市柏3-6-14<br>増谷第1ビル4階402号<br>電話：04-7162-2130<br>FAX：04-7162-2140<br><a href="http://www.geocities.jp/kashiwa_kosodate/">http://www.geocities.jp/kashiwa_kosodate/</a>                        |
| 地域子育て支援セミナー<br><br>「行政との共同のあり方」<br>講師：柏市市民活動推進課 沖本 由季さん<br><br>人形劇・パネルを使って幼児が集中できる<br>「おはなし会」で絵本とのつながりを深める<br>講師：NPO法人 おはなしおはなしグーチョコパー<br>理事長 宮本 良美さん | 10/25(日)<br>13:30～<br>16:00 | 柏中央公民館   | 無料<br>(託児有/無料) | 定員<br>50名 | 主催：地域ささえあいネット<br><br>事務局：ワーカーズコレクティブういず<br>電話：04-7134-7201  |
| 気管切開の子どもの学校生活を考える集会<br><br>『生活行為としての医療的ケア』<br>講師：長谷川 久弥氏<br>(東京女子医大病院・周産期新生児診療部長)<br><br>『学校生活のなかの医療的ケア』<br>講師：山田 真氏<br>(小児科医・障害児を普通学校へ全国連絡会世話人)      | 10/31(土)<br>13:30～<br>17:00 | 流山市生涯学習センター<br><br>つくばエクスプレス<br>流山セントラルパーク<br>駅下車 徒歩3分 | 500円<br>(資料代)  |           | 主催：気管切開の子どもの学校生活を考える集会実行委員<br>(共催：つばさの会(気管切開児親の会)<br>生活と教育を考える会<br>きみがいるからおもしろい会・松戸<br>共に育つ教育を進める千葉県連絡)<br>《連絡先》<br>山田：04-7174-0649<br>メール kuku@mbi.nifty.com<br>仲井：04-7132-0244<br>メール waninatu,mayu@ezweb.ne.jp |